

アイデアのまとめ方 - レポート執筆の下準備 -

あるテーマについてレポート課題が出されたら、いきなり書き始めるのではなく、まずは書くための準備作業に入りましょう。同じテーマであっても取り上げるトピックは人によって違うでしょうし、意見のまとめ方も異なるでしょう。どのようにアイデアをまとめるかは、多くの学生にとって大きな問題です。そこでアイデアをまとめる手法について、ブレインストーミングとクラスタリングという二つの方法を紹介します。いずれも、経験しておく、授業でも、あるいは就職してからも、多くの局面で役に立ちます。

ブレインストーミング | BRAINSTORMING

テーマが与えられても、何をどのように書いたらよいか漠然としすぎて分からないということはよくあることです。そこで、そのテーマに関連したトピックについて、アイデアを出すことから始めます。よく知られた手法のひとつにブレインストーミングがあります。

ブレインストーミングは、少人数のグループでアイデアを出し合うときに用いられる方法ですが、レポートのアイデアをまとめる際にも活用することができます。

以下の四つのルールにしたがって、ブレインストーミングを行います。

判断遅延

アイデアの良し・悪しは後で考えることにし、まずはアイデアを出すことに専念しましょう。

自由奔放

突飛なアイデアであっても気にせずにアイデアを出しましょう。

質より量

アイデアの質よりも量を重視し、たくさんのアイデアを出すように心がけましょう。

結合改善

個々のアイデアを結びつけ、発展させましょう。新たなアイデアが浮かび上がるかもしれません。



思いつくままに書き出してみよう!

実際のブレインストーミングでは、みんなでアイデアを出しながら、ホワイトボードにアイデアを書き留めていくように進められることが多いのですが、一人で行う場合、ノートなどにアイデアを思いつくままに書き留めていくのがよいでしょう。このとき、あまり時間をかけずに5分とか10分とか時間を区切って、なるべく多くのアイデアを出すのがコツです。

★ブレインストーミングの例



テーマ「情報収集の方法」

図書館、書架、レファレンスカウンター、参考図書コーナー、書籍検索、OPAC、データベース、検索、インターネット、オンライン、新聞記事、雑誌掲載論文、企業情報、…

ブレインストーミングのルールの中に、「結合改善」というものがありました。しかし、どのようにアイデアを結びつけたらよいのか、すぐには思いつかないかもしれません。そのような時に役立つのは、クラスタリング(ウェビングとかマッピングと呼ばれることもあります)という手法です。

クラスタリングは、丸で囲まれたアイデアを線で結びつけることで、個々のアイデアがどのような関係をもっているのかを視覚的に表す手法です。

最初に、テーマとなるアイデアを紙の中央に書き、丸で囲みます。次に、関連するアイデアをその周りに書き出し、丸で囲んで中心のテーマと結びつけます。さらにそれらのアイデアに関連するアイデアをその周りに書き出し丸で囲んでいく、というようにして最初にブレインストーミングで絞り出したアイデアを配置していきます。このようにアイデアを結びつけることにより、新たなアイデアが浮かぶこともあります。

クラスタリングの作業を通じて、問題全体の構造を俯瞰できるようになります。最初に出されたアイデアには無駄なものも多く見つかるかもしれませんが、あるいは足りない部分があることに気がつくかもしれません。自分が思いついたアイデアが、一部に片寄っていることに気がつくかもしれません。バランスよくアイデアを追加したり削ったりして、全体の構成をまとめていきます。

最後に、クラスタリングの結果をもとにレポートのアウトラインを作ってみましょう。きっと何の準備もなく書き始めるよりも、しっかりとした構成のレポートを書くことができるはずです。

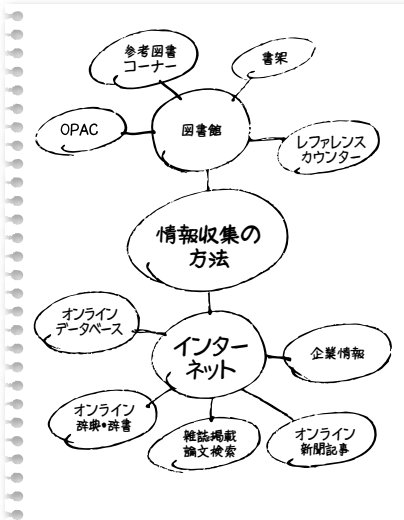


**クラスタリングの結果をもとに
レポートのアウトラインを構成してみる。**



レポートの書き方

★クラスタリングの例



★レポートのアウトラインの例

情報収集の方法

1. 図書館を使いこなす
 - 1.1 OPACで検索する
 - 1.2 参考図書コーナーを利用する
 - 1.3 書架で探す
 - 1.4 レファレンスカウンターで尋ねる
2. インターネットで文献検索
 - 2.1 オンラインデータベース
 - 2.2 オンライン辞書・辞典
 - 2.3 オンラインの新聞記事
 - 2.4 書籍情報
 - 2.5 雑誌掲載論文
 - 2.6 企業情報

レポートのアウトラインを構成する

